

## ていねいな暮らしのあつたころ

佐野二彦の撮った伊深の里山

どうまく風を捕まえて揚げました。

上の写真は、縁側で「すごろく」をしている様子です。年上の子が年下の子に遊び方を教えました。左の写真は、羽根突きをしている様子です。羽根突きの羽根は、ムクロジという木の実の種と鳥の羽根で作っております。

正月の間、子どもは着物や学生服など、「いちっちょうら」（よそ行き）の服を着て過ごしました。

※1月24日まで、文化の森で「ていねいな暮らしのあつたころ」展を開催しています（観覧無料）

「羽根突き」（昭和38年1月1日撮影）



「正月の子どもの遊び」（昭和38年1月2日撮影）

## 「正月の遊び」

正月は、寺や神社へお参りに行き、新年のあいさつをしました。

子どもたちは近所の家に集まり、たこ揚げ、すごろく、羽根突き、百人一首などで遊びました。

遊び道具のなかには、自分で手作りするものもありました。例えば、たこは竹の骨組みに、和紙で思い思いの絵を描き作りました。田んぼや土手